

## 8月上旬

### 秋どりハクサイの栽培

#### 1 作型と品種

(○播種 ◯トンネル □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
秋どり							○	---	○	-----	□	□	耐病60日
冬どり	---	□	□	□	□		○	-----					ほまれ、三宝

#### 2 栽培上の注意点

- ① ハクサイは、短期間内に旺盛な成長をするので耕土が深く、排水がよく、保水性に富んだ肥沃な土地でつくる。
- ② ホウ素や苦土が欠乏しやすいので、微量要素を含んだ土壌改良資材を施用する。
- ③ 球は70～100枚と多くの葉で構成されるため、大きな球を得るためには肥料をよく効かせ、生育を早めること。

#### 3 うねづくり・本田肥料

ハクサイの根は細いが深く伸びるので、種まきの10日前までに、完熟堆肥を3kg/m<sup>2</sup>、セルカ150g/m<sup>2</sup>と元肥として化成肥料(14・10・10)120～150g/m<sup>2</sup>を全面に施し、土を深く耕す。

畝幅は、120cmのできるだけ高畝にする。

#### 4 たねまき・間引き

株間は、40～50cmに点まきする。まきか所の土壌を細かく砕き、ビール瓶の底などで軽くたたき、浅いまき穴をつくる。

1か所5粒ほど種をまき、薄く覆土し、乾燥防止に切りワラを敷き、十分灌水する。

間引きは、生育の悪いもの、虫害のものを間引くとともに、1回目は本葉2枚の頃2～3本に、2回目は本葉7～8枚で1本立ちにする。

#### 5 追肥・土寄せ

追肥は、種まき(植え付け)後15日頃に1回目を、2回目はその15日後頃に、3回目の最終追肥は、結球が始まり葉が立ってきたときに、それぞれ野菜専用化成(15・15・10)を50g/m<sup>2</sup>/1回あたり施す。

ホウ素欠乏が毎年出やすい場合は、耕耘する前にホウ砂を3.3m<sup>2</sup>当たり3gを1Lの水に溶かし、ジョウロで均一に散布して耕耘畝立てする。

#### 6 灌 水

結球した白菜を切ってみると、どの葉も周囲が褐色になっていることがある。これはカルシウムの吸収や移行が十分でないためで、元肥に石灰質肥料を施しても、窒素肥料が多すぎたり、土壌が乾いたりすると発生しやすい。

またホウ素欠乏も同じことがいえる。このような生理障害を防ぐには、土壌に適度な水分をもたせるとともに、根を傷めないようにすることが大切です。



球を斜めに押し倒し、外葉との間に包丁を入れて切り取る

#### 7 収 穫

球の頭を軽く押さえ、硬く締まった感じのものから収穫する。

# 8月中旬

## 秋冬どりダイコンの栽培

### 1 作型と品種

(○播種 □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種	
秋冬どり	□	□						○	---	○	-----	□	□	耐病総太り、大蔵

### 2 栽培上の注意点

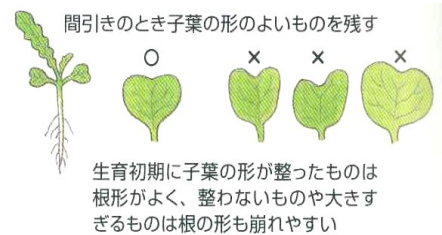
- ① 耕土が深く膨軟で、水はけ、水持ちのよい肥えた土が適する。
- ② 排水の悪いほ場は高畝にする。
- ③ 生育適温は15～20℃で涼しい気候を好む。
- ④ 耐寒性があり、強健で土壌の適応性は広く、かなりやせた地でも栽培できる。
- ⑤ アブラムシによりモザイク病が伝播されるので、特に高温時には防除対策が大切。
- ⑥ 未熟堆肥は又根の原因になるので、必ず完熟堆肥を使う。

### 3 うねづくり・本田肥料

たねまきの10日前に、完熟堆肥3kg/m<sup>2</sup>とセルカ100g/m<sup>2</sup>、元肥として化成肥料(14・10・10)150g/m<sup>2</sup>を全面に施し、深く耕した後、畝幅120cm、畝高20～30cmに整地する。

### 4 たねまき・間引き

条間40cm前後の2条千鳥まきにする。株間は25cm程度にする。ジュースの缶などを押しつけ、地面にできた円の型にそってまけば、種が片寄らない。1カ所に4～5粒ずつ種をまき、1～1.5cmの深さに覆土する。



間引きは、本葉1枚のころ3本に、本葉4～5枚時に所定の間隔に1本立ちにする。間引きのつど、株元へ手先で軽く土を寄せ、倒伏や曲がりを防ぐ。間引きが遅れると徒長して、倒れやすくなるので注意する。

### 5 追肥

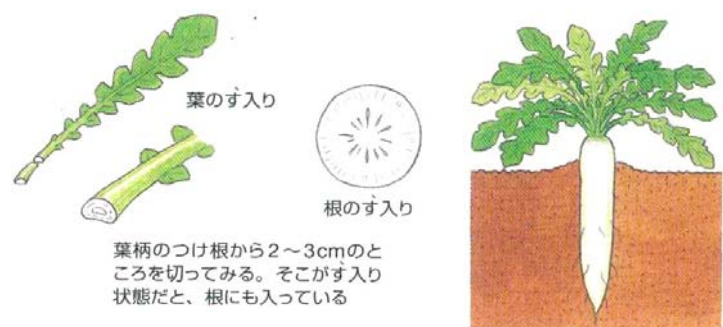
追肥は、1回目と2回目の間引き後に追肥する。1回目、2回目条間に施肥溝を付け、野菜専用化成(15・15・10)30g/m<sup>2</sup>を施す。2回目の追肥のときに株元へ土寄せする。

### 6 中耕・土寄せ

追肥後は必ず、中耕や土寄せをする。また、雨などで表面が固くなったときも、軽く中耕する。

### 7 収穫

上方に向かって勢いよく伸びていた葉が開き気味になり、外葉が垂れるようになったら収穫の適期である。収穫が遅れるとす入り(空洞化)してしまう。



## 8月下旬

### ワケギの栽培

ワケギはネギの変種で、軟らかくて香りが強いので薬味やぬた用として重宝です。とう立ちしないので種子はとれないので、ラッキョウのように根元が小さな球になったものを種球として植え付ける。初めての場合一市販の種球を買い求める。次の年からは自家の栽培していたのを利用する。

栽培する畑は石灰、堆肥をまいて良く耕しておく。かぶ分かれが良くて質の良いワケギを取るには、堆肥を十分に与え肥料切れさせないようにする。

元肥の量は1㎡当たり堆肥300g、苦土石灰10g、化成肥料5gを施す。90cmのうねをたて、2条植にして15cm間隔に2～3球ずつ植え付ける。植え付ける深さは、芽の先がわずかに地上にのぞく程度にする。

追肥は葉が15cmぐらいの長さに伸びたところに、化成肥料をかぶの周りにばらまき、軽く土に混ぜる。その後も葉色や収量をよく観察しながら、適宜少量の追肥をする。追肥の量は1㎡当たり、1回の量は化成肥料3g程度にする。

収穫はたくさん株分かちして葉が十分軟らかく伸びたら順次収穫する。葉を折らないように株元から掘上げるが、湿っていれば指先を土中にさし込み、株分けするようにして収穫するのもよい。また地上部だけ取って利用すれば再び萌芽してくるので、2～3回刈り取ることが出できる。

(分球方法)

(植え付け方法)

